

4 . 泌尿器科

1 研修目標

泌尿器科学全般にわたる疾患の知識を身につけ、内視鏡検査やレントゲン検査などの検査を独力で行えるようになることを目指し、更に、内視鏡手術や腹腔鏡手術などの術者として高度な手術が完遂できることを目標としています。また、学会発表・論文発表を通じて臨床研究にも取り組むことで、泌尿器科学に貢献できる人材の養成を行います。

2 診療内容と特徴

当科へは、兵庫医科大学泌尿器科学教室より2名の泌尿器科専門医（内1名は指導医）が派遣されています。日本泌尿器科学会専門医教育施設として、地域医療に貢献しております。また、前立腺肥大症に関しては、平成17年2月よりホルミウムレーザーを用いた経尿道的前立腺核出術(HoLEP)をいち早く取入れ、患者さまのQOLに重きを置いた先進的な治療を行っており、他府県よりの患者さまも来院されます。HoLEPの最大の合併症であった尿失禁の改善に取組み、現在では、尿道カテーテル抜去直後より尿失禁症例はなくなりました。

部長の滝内は、泌尿器腹腔鏡技術認定を取得しており、腹腔鏡下腎摘術などの腹腔鏡手術に工学的手法を積極的に導入し、手術の安全性向上に取り組んでおります。具体的には、腹腔鏡手術におけるナビゲーションシステムの構築に取り組んでおり、国際誌（Journal of Urology）にその成果が掲載されました。国内外の学会においてもその成果を発表しており、臨牀だけでなく研究活動も積極的に行っております。この度、第95回日本泌尿器科学会総会で、当院で行われているオーグメントドリアリティーを応用した腹腔鏡下腎摘術に関する演題発表が、副腎・腎・尿管部門での総会賞を受賞しました。

結石治療では、腎盂鏡や尿管鏡と体外衝撃波結石破碎術とを組合わせた治療を行い、できる限り短期間で疾患が完治するように配慮しております。内視鏡を用いた結石破碎治療には、ホルミウムレーザー、超音波破碎装置、電磁水圧式破碎装置等の多様なラインアップを装備しており、どのような結石にも対処可能です。

3 当科の主な業績

(1) 2005年

・Kidney displacement simulator for retroperitoneal laparoscopic nephrectomy; H. Takiuchi et.al, J. Urol, Vol. 174, 2111-2114, 2005

(2) 2006年

・ホルミウムレーザー前立腺核出術(HoLEP)の初期治療成績の検討; 中尾 篤、滝内秀和, 泌尿紀要, 52巻, 777-780, 2006

(3) 2007年

・腎変位シミュレーション法を用いたリアルタイムナビゲーションガイド下後腹膜腎摘術; 滝内秀和、中尾 篤, 日本バーチャル医学会誌, 5巻, 11-16, 2007

・鏡視下腎摘術におけるオーグメンテッドリアリティー技術の応用；滝内秀和、中尾 篤，
第 95 回日本泌尿器科学会総会 腎・副腎・尿管部門 総会賞受賞

4 研修終了後の進路

個人の希望を優先し、進路を決定します。兵庫医科大学関連の病院や兵庫医科大学泌尿器科学教室で、続けてスタッフとして泌尿器科専門医を目指すこともできます。

研究をしたい場合は、希望する大学院に入学し、医学博士の学位を取得することもできますし、大学院へ行かなくとも臨牀をしながら医学博士の学位の取得を目指すこともできます。

兔に角、個人の夢がかなうようにスタッフが全力で応援致します。